

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

Mexican Americans : Resistance and Creativity

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2011-01-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 黒田, 悦子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15021/00000791

国立民族学博物館研究叢書

[2]

メキシコ系アメリカ人

越境した生活者

黒田悦子



Senri Ethnological Monograph 2

Mexican Americans: Resistance and Creativity

Etsuko Kuroda

©2000, Etsuko Kuroda

はじめに

本書は私が一九七〇—一九〇年代に断続的に書いてきたメキシコ系アメリカ人についての論文、報告書、エッセイから七編を選び、収録したものである。全体として、この民族集団（エスニック・グループ）の歴史、社会、文化について一つの見方を提出したものであり、試作として出版することにした。

序章は一九九八年に私がいきついたこの人々とその文化への見解をのべたものであり、以下に続く各章のテーマが考察の対象になる理由も明らかにしている。すでに一九七六年にニューメキシコ州アルバカーキ市で最初の調査をはじめながら、なかなかまとまらない研究対象であったが、近年やっと筋道が見えてきたような気がして書いてみた。

第I部では歴史を扱っている。この人々の辿った歴史について、ほとんど知識のなかった私が、文献を読み概説したのが第一章である。ここにでてくる一九六〇年代のリーダーのうちで最も興味をそそられたのがセサル・チャベスであった。彼がカリフォルニアで農業労働組合運動を展開していくに際して、メキシコの民族文化が活用されていることに興味を抱き、その点を分析したのが第二章である。そして、メキシコ系の人々の農業労働組合運動が日系移民とも無関係でないことが分かり、これについて付記をつけた。

第II部はニューメキシコ州北部タオスの町でのフィールドワークの報告書と州都サンタ・フェでの観察にもとづく小論からなっている。第三章の報告書は一九八二年に出版され年月が経っているが、環境・観光・エスニック問題という今日的テーマに関わる内容であり、そのうえ、「スペイン系アメリカ人」と自称する人々のおかれた三民族共生状況が記述・分析されており、今日でもその仕組みは変わらないので、ここに収録した。第四章は、サンタ・

フェとタオスの祝祭を比較することで、この二つの著名な町におけるスペイン系アメリカ人の生活の差を明らかにしている。同時に、エスニックな関係性を越えた人間の連繋の可能性にふれている。これら二つの章はメキシコ系アメリカ人のサブ・グループである「スペイン系アメリカ人」の実態を伝えている。

なぜこのサブ・グループをとりあげたのかとの質問が時々であるが、半ば偶然で半ば計画的、と答えざるをえない。計画的に選択した理由をのべると、一、歴史的深度のある対象を扱いたかったこと、二、ネイティヴ・アメリカンやアメリカ人一般との民族間関係が微妙に表出されるフィールドを求めたこと、三、「スペイン系アメリカ人」と今は自称する人々もメキシコ移民が増える以前には「メヒカーノ」(メキシコ人)と自称していたことから明らかのように、ニューメキシコ州のこの人々には自称の移り変わりがみえる研究対象であったこと、などであった。日本ではむしろのことアメリカ合衆国でもメキシコから大挙してくる新移民や不法入国者が話題になりがちであるが、メキシコ系アメリカ人の問題は一六世紀に発端のある根の深いことである、と私は主張したのである。

第Ⅲ部は小説と壁画を扱っている。この分野は現在もなお私が学びつつあるテーマで、努力して書いたとはいえず、第五章も第六章も素描にすぎない、と思っただければ幸いである。

各章は独立の章としても読んでいただけるよう文章を整えたので、若干の重複がでてきたところもある。表記の統一は難しいが、メキシコ系およびメキシコ起源の人名や地名などはスペイン語表記に従うことにした。英語表記が定着している場合はそれを採用した。

メキシコ系アメリカ人

—— 越境した生活者 ——

「目次」

はじめに

〔序章〕◆越境者の抵抗文化の構築

1

一、 国境の南から見直すアメリカ 1

二、 メキシコ系アメリカ人への関心と無関心——メキシコとアメリカで 4

三、 チカノ文化の構築 6

四、 展望 15

I

〔第二章〕◆メキシコ系アメリカ人の来た道

——歴史的経緯

21

一、 民族集団化への過程 22

二、 一九六〇年代の復権運動 38

三、 ヒスパニック連合の動向 48

〔第三章〕◆セサル・チャベスの農業労働組合運動を支えたチカノ文化

53

一、 セサル・チャベスの生涯と農業労働組合運動の展開 55

二、 運動を支えたチカノ文化 64

三、 現在の課題 77

〔付記〕メキシコ系農業労働者と日系人の接触 78



II

〔第三章〕◆危機に立つ民族性エスニシテイと民族文化

——ニューメキシコ州タオスの「スペイン系アメリカ人」(イスパノ)の葛藤

一. タオスの町 85

二. イスパノ—インディア—アングロの三民族間関係 90

三. スペイン語を話す人々の分類と文化的アイデンティティ 99

四. 水利・環境問題をめぐるイスパノの抵抗運動と市民運動 114

五. 民族文化の復興 117

六. 展望 123

〔第四章〕◆都市の時間と象徴

——ニューメキシコ州のサンタ・フェとタオス

一. 時の流れのなかの都市 126

二. 日常の時の都市 128

三. 祝祭の時の都市 131

四. 象徴への収斂 137

III

〔第五章〕◆チカノ小説

一、チカノ小説の魅力 143

二、女性チカノ小説の登場 148

【第六章】◆チカノ壁画から美術館のための「移動用壁画」へ

——メキシコ系アメリカ人の抵抗の表現(素描)—— 153

一、オロスコ、リベラ、シケイロスのアメリカ合衆国での足跡とその影響——とくにシケイロスについて 155

二、チカノ壁画運動(一九六〇—七〇年代)とその継承 161

三、チカノ壁画への批判的動向(一九七〇—八〇年代)——「歩く壁画」の出現 179

四、「移動用壁画」の出現(一九八〇—九〇年代)と壁画の現状 181



あとがき 189

注と文献(章別) 193

索引 236

